

東京国立博物館・文化財活用センター・凸版印刷、
バーチャルトーハクを開設。「時をかける少女」の特別展を開催

バーチャル空間に東京国立博物館が出現、アニメーション映画「時をかける少女」の展覧会を再現した特別展「アノニマス 一逸名の名画」を12月19日(土)よりオンライン公開
公開前日に細田守監督登壇のトークイベントを開催

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館(所在地:東京都台東区、館長:銭谷 真美、以下 東京国立博物館)、独立行政法人国立文化財機構文化財活用センター(所在地:東京都台東区、センター長:旭 充、以下 文化財活用センター)と凸版印刷株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:麿 秀晴、以下 凸版印刷)は、バーチャル空間に「バーチャル東京国立博物館(以下 バーチャルトーハク)」を開設。アニメーション映画「時をかける少女」(以下「時をかける少女」)のスタジオ地図・細田守監督とのコラボレーション企画 バーチャル特別展「アノニマス 一逸名の名画」を、2020年12月19日(土)から開催します。

本展覧会は東京国立博物館の一部を「バーチャルトーハク」としてバーチャル SNS「cluster」(※1)のバーチャル空間内にCGで再現し、その空間内に「時をかける少女」の劇中シーンのために企画された、現実では実現できない特別展「アノニマス 一逸名の名画」を出現させます。ユーザーは cluster のプラットフォームを通して自由にその空間内を歩き回り作品を鑑賞することができます。14年経っても色褪せることのない「時をかける少女」の世界観と、時代を超えて愛される日本美術を楽しむことができるバーチャル特別展です。

また、公開前日の12月18日(金)には本展覧会公開記念として、バーチャル特別展の会場内にてトークイベント「時をかける日本美術」を開催。細田監督と東京国立博物館の松嶋雅人研究員が cluster アバターで登場し、「時をかける少女」をはじめとする現代アニメーションと日本美術の関係についてトークセッションを行います。



■ バーチャル特別展「アノニマス 一逸名の名画」について

「時をかける少女」のストーリーで重要な意味を持つ美術作品「白梅ニ椿菊図」(実存しない、映画内のみ登場)。劇中の展覧会においてこの絵画を中心にさまざまな作品が展示されています。今回、バーチャル上でその展覧会を再現した特別展が「アノニマス 一逸名の名画」です。同展では松嶋研究員の監修のもと、国宝「孔雀明王像」や、「玄奘三蔵像」(以上 東京国立博物館蔵)など、作者が不明とされながらも、名品として脈々と受け継がれてきた作品を集めました。映画では全容が明らかにされていない展示内容を、cluster 内に開設された「バーチャルトーハク」で公開します。



バーチャル特別展「アノニマス 一逸名の名画」(イメージ)



左:「白梅ニ椿菊図」、中:国宝「孔雀明王像」、右:「玄奘三蔵像」(中・右:東京国立博物館蔵)

特別展名	バーチャル特別展「アノニマス 一逸名の名画」
主催	東京国立博物館、文化財活用センター、凸版印刷株式会社
特別協力	スタジオ地図
会場	バーチャルトーハク 特別展示室 (cluster 内)
期間	2020年12月19日(土)～2021年2月28日(日)
入場料	290円(税込) *購入方法によって価格が変動します。詳細はイベント特設サイトをご確認ください。
特設サイト	https://virtualtohaku.jp/anonymous2020_exhibition/

* 本企画は文化庁「文化芸術収益力強化事業(※2)」の採択事業です

■ トークイベント 細田守×松嶋雅人「時をかける日本美術」について

本イベントは12月18日(金)に cluster のバーチャル特別展「アノニマス 一逸名の名画―」内で開催します。特別展会場に設置したステージで、細田監督と松嶋研究員が cluster アバターで登場し、「時をかける少女」をはじめとする現代アニメーションと日本美術の関係や、バーチャル特別展「アノニマス 一逸名の名画―」の展示作品の映画との関連性などについてトークセッションを行います。

「映画も、美術史 2000 年の美の大系の中にある」と語る細田監督作品の表現とはどのようなものか。これまで日本美術を中心に多彩なキュレーションを行ってきた松嶋研究員が、日本美術史の最先端表現としてアニメーションをとらえ、細田監督作品の革新性と、現代における表現にも脈々と受け継がれる日本美術の面白さについて紐解きます。



(左)細田守<撮影/神藤剛> (右)松嶋雅人

イベント名	バーチャル特別展「アノニマス 一逸名の名画―」公開記念イベント 細田守×松嶋雅人「時をかける日本美術」
主催	東京国立博物館、文化財活用センター、凸版印刷株式会社
特別協力	スタジオ地図
会場	バーチャルトーハク 大階段&特別展示室(cluster 内)
日時	2020年12月18日(金) 19:00~20:30 *通信状況により時間に変更になる場合があります。
料金	1,100円(税込) *購入方法によって価格が変動します。詳細はイベント特設サイトをご覧ください。 *バーチャル特別展「アノニマス」のガイドツアーも実施を予定しています。
チケット発売日	2020年11月18日(水)15:00より販売開始
チケット購入方法	インターネット販売 *購入方法はイベント特設サイトをご覧ください。
定員	5,000名(予定数に達し次第、販売終了)
イベント特設サイト	https://virtualtohaku.jp/anonymous2020_exhibition/



イベント会場イメージ

<登壇者プロフィール>

【細田 守(ほそだ まもる)／映画監督】

1967 年生まれ、富山県出身。1991 年に東映動画(現・東映アニメーション)へ入社し、アニメーターを経て演出(監督)になる。1999 年に「劇場版デジモンアドベンチャー 僕らのウォーゲーム」で映画監督としてデビューを果たす。その後、フリーとなり、「時をかける少女」(2006)、「サマーウォーズ」(2009) を監督し、国内外で注目を集める。2011 年、自身のアニメーション映画制作会社「スタジオ地図」を設立し、「おおかみこどもの雨と雪」(2012)、「バケモノの子」(2015)とともに監督・脚本・原作を手がけた。最新作「未来のミライ」(監督・脚本・原作)は第 71 回カンヌ国際映画祭・監督週間に選出され、第 91 回米国アカデミー賞®長編アニメーション映画賞にノミネートされた。

【松嶋 雅人(まつしま まさと)／東京国立博物館研究員・文化財活用センター企画担当課長】

1966 年大阪市生まれ。1992 年金沢美術工芸大学修士課程修了。1997 年東京藝術大学大学院博士課程満期退学。1998 年より現職。2018 年 7 月より独立行政法人国立文化財機構文化財活用センター企画担当課長併任。主な展覧会に「没後 400 年 長谷川等伯」(2010)、「生誕 150 年 黒田清輝—日本近代絵画の巨匠」(2016)、「マルセル・デュシャンと日本美術」(2018)ほか。文化財の調査研究以外にもさまざまな活動を展開しており、細田守監督作品「時をかける少女」(2006)、「バケモノの子」(2015)の制作に協力。

■ 「バーチャル東京国立博物館」(バーチャルトーハク)について

東京国立博物館の一部を VR で再現したバーチャルミュージアム。これまで実現できなかったキュレーションや展示演出、さらに国内外からの時空にとらわれることないアクセスを可能にし、ニューノーマル時代の新しいオンライン文化鑑賞体験を提供します。

今回は、東京国立博物館本館の大階段および 18 室を模してバーチャル空間内に再現し、バーチャル特別展を開催します。

【東京国立博物館について】

東京国立博物館は、1872 年(明治 5 年)に開館した日本でもっとも伝統のある博物館です。日本と東洋の文化財の収集保管、展示公開、調査研究、普及などを目的として独立行政法人国立文化財機構が運営しています。



バーチャルトーハク外観(イメージ)

■ アニメーション映画「時をかける少女」について

「時をかける少女」は、2006 年 7 月 15 日に角川ヘラルド映画から公開された日本のアニメーション映画です。筒井 康隆(つつい やすたか)氏の同名の小説を原作とし、細田監督により制作。各国の映画祭などで多くの賞を受賞するなど、高い評価を受けました。

ストーリー展開の鍵となる、同作品内で登場する博物館は、東京国立博物館がモデルになっています。



アニメーション映画「時をかける少女」における博物館のシーン

©「時をかける少女」製作委員会 2006

※1 バーチャル SNS「cluster」

「cluster (クラスター)」は、スマートフォンや PC、VR 機器など様々な環境からバーチャル空間に集って遊べる、マルチプラットフォーム対応のバーチャル SNS です。

※2 文化庁「文化芸術収益力強化事業」

文化庁の令和 2 年度戦略的芸術文化創造事業。新型コロナウイルス感染症の拡大による収益機会の減少などにより、多くの舞台芸術団体・博物館等の文化芸術団体の経営環境が厳しさを増す中、コンテンツ制作・配信、プロモーションなどのデジタル技術、サービスを活用し、デジタルならではの価値体験を創造することで文化芸術団体の新たな収益確保・強化を支援する事業です。

* 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

* 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります

以 上

<報道に関するお問い合わせ先>

(バーチャルトークおよびトークイベントについて)

凸版印刷株式会社: 広報本部 TEL 03-3835-5636 FAX 03-3837-7675

(文化財および展示について)

東京国立博物館: 総務部総務課 TEL 03-3822-1111 FAX 03-3822-9680